

株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
単元株式数 50株
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
証券代行事務センター(〒168-0063)
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
公 告 方 法 電子公告とし、当社のホームページ
(<http://www.nihon-trim.co.jp>)
に掲載いたします。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない場
合の公告方法は日本経済新聞に掲載する方法
といたします。



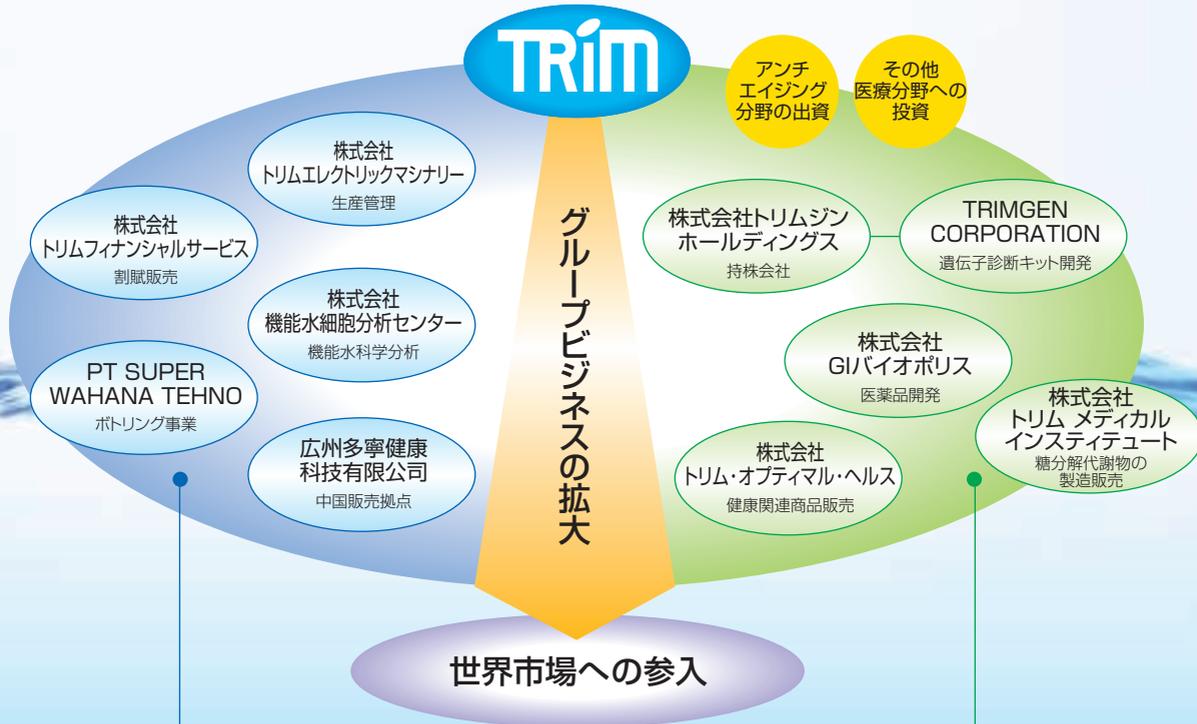
第26期 年次報告書

[平成19年4月1日～平成20年3月31日]

21世紀は「水」の時代。

水の新たな価値を創造し、社会に貢献できるグローバル企業を目指す！

飲用分野では、家庭用電解還元水整水器製造・販売事業に加え、ボトリング事業のグローバル展開、医療・予病分野への本格的進出による世界市場へ向けたグループビジネスの拡充を図ってまいります。



電解還元水事業分野

産学・産病共同研究により、電解還元水の更なる効用の解明及び医療・予防医療分野、農産分野等の様々な分野への応用に向けて取り組んでおります。医療分野では、人工透析への応用研究がその実用化に向けて着実に進捗、予防医療分野でも生活習慣病への効果の検証を目的に臨床研究を実施しており、これら研究成果による新たなマーケット構築を目指してまいります。海外では、インドネシアでのボトリング事業が順調に伸長しており、今後、世界の5兆円ポルトドウォーターマーケットへの参入を目指します。

新規事業・投資分野

遺伝子関連では、米国グループ会社TRIMGEN CORPORATIONの日本での展開及び目標とするIPOに向けての展開を視野に入れ、持株会社として株式会社トリムジンホールディングスを設立。現在、遺伝子診断キットのFDA510Kの申請を行っており、今後、診断分野への参入を目指してまいります。また、バイオ分野・アンチエイジング分野等へ出資し、電解還元水事業とのシナジー効果を追求した事業構築を目指してまいります。今後も「医療」「健康」をキーワードに、積極的な投資を行ってまいります。

「電解還元水」の更なる可能性を追求し、飲料分野・医療分野の市場を開拓

胃腸症状の改善の効能・効果に加え、抗酸化性を持つ「日本トリムの電解還元水」は、日常的に飲むことで、生活習慣病のリスク軽減につながると期待されています。現在、人工透析への応用や抗糖尿病効果、メタボリック症候群対策としての血糖値・中性脂肪値への効果(パイロットデータ取得済)に関する研究に取り組んでおり、これら科学的エビデンスの蓄積による電解還元水飲用分野への波及効果は絶大であると考えております。本年4月より特定健診制度がスタートし、企業、健康保険組合によるメタボ対策も積極化します。美味しい上に、健康維持にも役立つ水として、整水器事業、ボトリング事業は、これから本格化するセルフメディケーション時代という大きなビジネスチャンスを迎えます。

経営戦略として知的財産権の取得を推進し世界市場でのポジショニングを確保

日本トリムは、数多くの大学・研究機関と連携し、電解還元水の研究を進めております。そこで得た成果は世界各国で特許の申請・取得を行い、知的財産権による優位性を確保しています。特に電解還元水の人工透析への応用をはじめとする医療分野では、将来的に独占的な市場を構築できるものと考えております。知的財産権の取得は、トリムグループの経営上の基本戦略であり、最重要事項として位置付けています。それはバイオ関連事業などの新規事業分野におきましても同様であり、「研究→論文・学会発表→特許取得→製品化・実用化」のビジネスモデルを基軸に、今後、世界市場における当社のポジショニングを確保してまいります。

短期的業績向上に向けた対策を精力的に推進

将来への飛躍に向けた中長期的な取り組みの一方、短期的業績向上への取り組みも積極的に推進いたします。整水器直販部門では、岩谷産業株式会社と水事業での包括的な事業提携を結びましたが、今後も、販路拡大を目的に、資本提携も視野に入れたアライアンスに取り組んでまいります。OEM・卸部門では、新たにヤマノグループと取引を開始。大手不動産のハイエンド向けマンションへの納入やその他にも新規取引開始を予定しており、引き続き新規開拓に努めてまいります。また、トリムブランド構築を目的としたハイエンド向け製品等、新たな商品開発にも取り組んでおります。その他、Web対策の実施やエリアを絞った短期集中型のCM等の試験的实施など、足元業績の支援と共に将来への布石となる取り組みを行ってまいります。

スポーツを始め、「水」を通じた社会貢献活動も積極的に実施

四国・九州アイランドリーグ「高知ファイティングドッグス」のメインスポンサー、プロ野球オリックス・バファローズやプロバスケットボールbjリーグ大阪エヴェッサへのオフィシャルウォーター提供、トリムカップレディースフットサル大会(高知県)の冠スポンサー等、スポーツ選手にとって重要な水分補給の面からの貢献及び地域社会の活性化、トリムブランドの認知度向上を目指した取り組みを行っております。その他、がん患者支援イベント(財)日本対がん協会主催の「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」のオフィシャル・サプライヤー等「水」を通じた社会貢献活動にも積極的に取り組んでおります。



おいしい「水」こそ健康の源。



医学博士 藤田 紘一郎

代表取締役社長 森澤 紳勝

水は活性してこそ健康に良いという藤田紘一郎博士。水には機能があるという日本トリム
の森澤紳勝社長。藤田博士の「水の活性」と森澤社長の「機能する水」には、いくつかの共
通するものがあつた。それは、ともに「からだに良い水」という考え方である。世界の水事
情を研究して現地に赴き、みずからその水を飲んで答えを探した藤田博士の「活性する水」
に、森澤社長が「科学の水」で共通点を探り出そうとする。そこには、世界に先駆けて水に
機能があることを提唱し、徹底してそれを科学しようとする森澤社長の熱い思いがあつた。

水には生命に関わる機能がある。

森澤 当社の事業の核は「水」、それもからだに良い水を研究し、
提供していますが、先生も水については世界各地をまわって研究
され、ご本も出版されていますね。

藤田 私の専門は感染免疫学や寄生虫ですが、たまたま熱帯
病を研究されている方にお会いしたのがきっかけで、水に興味を
持つようになったのです。それから、世界の発展途上国で「水が
運ぶ病原体」を研究するようになり、さらに世界の飲料水を調査
してみようと考えたわけです。この40数年間で60カ国以上をま
わり、自分で実際に飲んで試してみました。お腹を悪くしたり、腸
チフスになったこともあります。

森澤 まさにご自分のからだで臨床したということですね。そ
れでということがわかったのでしょうか。

藤田 これについてはいくつかの本でも紹介していますが、結
論からいいますと、からだに良い水というのは確かにあるとい
うことです。そして、良い水を飲んでいる民族は長生きをしてい
るということですね。例えば、ヒマラヤ山麓・ネパールの奥地に住
むフンザ族、南米の奥地の高原に住むビルカバンバの人たちは
みんなが長寿で、長生きの秘訣は自分たちが飲んでいる水にあ
るといっているのです。

森澤 水は生命の源であり、生きていくうえで欠かせないもの
です。我々のからだも約70%は水でできています。ですから、そ
れは当然のことといえます。厚生労働省や農林水産省から出さ
れている、健康づくり、生活習慣病予防のための食生活指針「食
事バランスガイド」でも、水が主軸となっています。私たちも、他
にさきがけて着目し、生命に関わる水には機能があると考え、産

学共同で研究に取り組んできたわけです。

からだに良い水とは。

藤田 私たちは1日に約2.5ℓの水を摂取しなければ生きられ
ない。つまり、毎日からだのなかの水を2.5ℓずつ入れ替えます。
その水がからだに良い水かどうかで、健康状態も知らず知らず変
わっていくわけなんですよ。

森澤 先生の考えるからだに良い水とはどういうものなのでし
ょうか。

藤田 私は、生きている水と呼んでいます。活性している水と
いい換えてもいいでしょう。長生きするには、生きた水、からだに
活性する水を飲むことが大切です。

森澤 よくわかります。しかし、私たちは文明が進歩すればす
るほど、水を汚してしまっています。いまの文明社会のなかで、自
然な水をそのまま飲むということは難しくなっています。

藤田 その通りですね。ひとの細胞というのは1万年前と何も
変わっていません。それなのに、私たちの飲む水は大きく変わっ
てしまいました。地球の生物は昔からお互いに助け合って致命的
な病気にならないように共存してきました。人間のからだのなか
でも腸内フローラといって、有益な腸内細菌と人間が共存しあっ
ています。ところが、衛生的な水はその有益な腸内細菌まで殺菌
してしまいかねません。つまり、腸内環境が壊されてきているの
です。私たちがふだん飲んでいるすでに加工された水は、衛生面
では保証されていますが、だからといって活性を維持している
かどうかは別だということです。

森澤 確におっしゃる通りです。胃腸を正常に保つことは健康にとって重要なことです。どれだけバランスの良い食事を摂っても、胃腸が正常でなければ意味がありません。我々の電解還元水整水器は胃腸症状の改善に効能効果を認められた医療機器です。電解還元水は、浄水し、さらに電気分解することで、「機能」即ち、先生がおっしゃる「活性」を持たせた水といえます。

藤田 そうですね。加工されたことによって失われてしまった活性を取り戻した水ともいえるでしょう。

森澤 我々は、電解還元水の効能効果は胃腸症状の改善に止まるものではないと考えています。さらに研究を進めていくことで、「人間にとって最適な水とは何か」を科学的に証明したいのです。それが我々の仕事だと思っています。

水を科学する。

森澤 ところで先生は、著書のなかでアンチエイジングについて書かれていますね。肌の老化はつまり、肌の細胞が水を失ってしまうからだ。

藤田 そう。人間は成長とともにからだから水分を失っていきます。からだの水分は、赤ちゃんは約80%あるのが、老人だと約65%になってしまいます。私たちのからだにある水のうち、約55%は細胞内にとどまっています。残りの45%は、その細胞どうしのすきまを埋める細胞間物質のなかにあります。人間、老化が進むとこの細胞間物質に含まれる水が失われるのです。そして、水分が少なくなると、どうしてもその結果、肌のツヤが失われます。

森澤 ここでもからだに良い水を摂ることが大事になって



くるわけですね。電解還元水には、まだまだ未知の可能性が隠されています。その可能性を発見すべく、我々は国内外の大学や研究機関と連携しながら、その成果を論文や学会で発表してきました。

藤田 水を科学することは非常に重要なことだと思います。水ほど単純でありながら不思議なものはありません。酸性にもなればアルカリ性にもなる。なんでも溶かし込んでしまう。ですので、水の研究は非常に難しく、いまだ解明されていないことが多々あります。

森澤 水は採取する地域によってまったく成分が異なります。しかし我々は器械でそれを均一の水に生成することで水を科学することを可能にし、水にはさまざまな機能があることを解明してきました。そのひとつが、九州大学大学院との共同研究による電解還元水の抗酸化性の証明です。現代医学では、さまざまな疾病に活性酸素が関係していることが明らかになっています。電解還元水の研究をさらに追求すれば、もっと水と健康の関係がわかってくると思います。現在、基礎的な研究からセカンドステージに入っています。

日本発の「からだに良い水」を世界へ。

森澤 人類はもともと水のまわりに文明を築いてきました。四大文明がそうです。水なくしては、文明の発展はありません。しかし、先生のおっしゃるように文明が水の本来の活性を失わせているのであれば、文明のレベルに合わせた新しい水が必要だと思います。それが我々の提供する電解還元水だという自信を深めました。

藤田 そうです。私たちの文明環境のなかで自然の水が手に入らない以上、器械を使って自然の水に戻す必要があると感じます。それも健康分野だけでなく。

森澤 その通りです。我々は電解還元水をおいしい水、からだに良い水というだけでなく、医療、工業、農業ともっとさまざまな分野に応用できないかと考え、研究に取り組んできました。例えば、医療分野では電解還元水を人工透析に応用する研究を1995年以来台湾大学とともにやり、いまでは実用化に向けて国内大学院病院と臨床研究に取り組んでいます。農業分野ではこの水を使った減農薬あるいは無農薬への道を模索中ですし、家禽類への利用にも取り組んでいます。

藤田 私は世界各国の水事情を研究して歩き回っていますが、その先々でも日本トリムさんの名前をよく耳にしますね。

森澤 ありがとうございます。「水」というのは、事業として非常に大きなテーマですので、国内外を問わず、「水」に興味のある企業とのアライアンスは、積極的に取り組んでいきたいと考えています。現在、インドネシアの大手企業グループ・シナルマス社とのアライアンスでボトリングビジネスを始めているほか、中国でも拠点を設けています。今後、アジア、東南アジアから欧米へと進出していきます。

藤田 いまでも世界の水事情は良好であるとはいえません。川水を飲んで亡くなる子供たちがたくさんいるわけです。日本人が中心になって井戸を掘ろうという運動があって、私も参加したことがあります。しかし、掘ったときはいいのですが日本人がいなくなると、途端に管理できなくて、結局もどに戻ってしまいます。

森澤 確かにそうです。いまだに世界にはまともな水が飲めなくて、1日約6千人の人が亡くなっています。21世紀は「水」の時代といわれます。資源としての水の重要性はますます高まっています。そうしたなかで、我々のセカンドステージは、世界中にほんとうにからだに良い水を広く提供していくことと同時に、その水をさまざまな分野にも展開し、未来の文明社会に貢献していくことだと考えています。そのためにも、もっともっと水の機能を科学で解明し、事業として実用化していくことが必要だと考えています。



カラダ還元ウォーター「I'm fine」

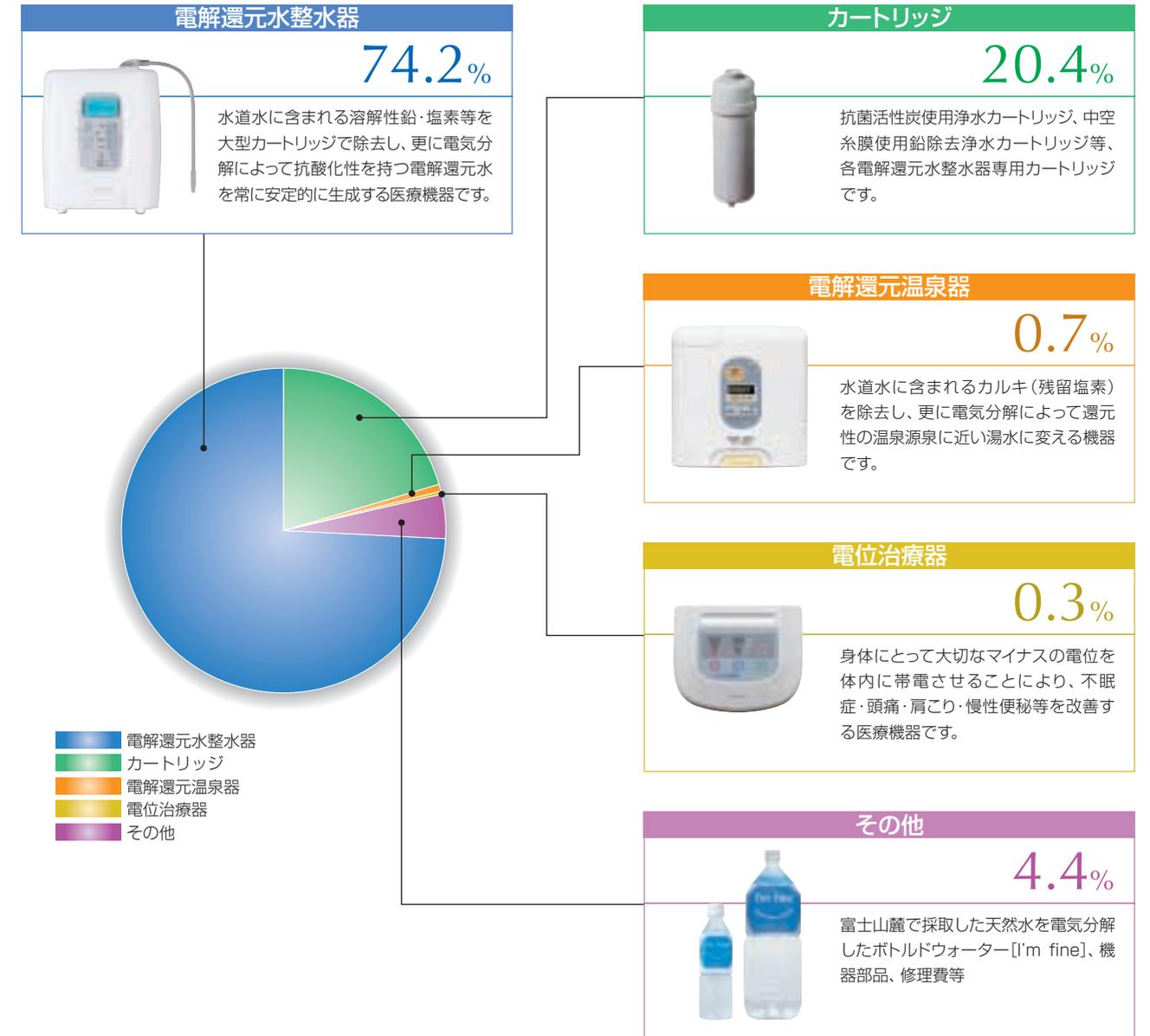
岩谷産業グループと水事業で包括的業務提携

平成20年4月15日、当社は岩谷産業株式会社（本社：大阪・東京、社長：牧野明次、資本金：2百億円）の子会社で、ガロンボトル入りの天然水の製造・販売における業界最大手の富士の湧水株式会社（本社：大阪市中央区、社長：久保秀樹、資本金：5千万円）の全発行株式の内20%を岩谷産業株式会社から譲渡を受け、資本参加および業務提携いたしました。

これにより、当社は天然水の取水・製造、ガロンボトル宅配、ウォーターサーバーレンタル、電解還元水整水器販売、プレミアムウォーターの開発などを総合的にワンストップで提供できる水のパートナー企業集団を形成することになり、近年の健康志向や美味しい水を求める顧客ニーズに対して、新たなウォーターサービスを提供してまいります。

電解還元水飲用によるメタボ対策を提案

北野病院創立80周年記念プロジェクトとして、当社と財団法人田附興風会医学研究所北野病院と「抗酸化活性を有する還元水摂取の生体に与える影響」に関する共同研究を実施し、その中で、メタボリックシンドローム対策として、血糖値、中性脂肪値に対する電解還元水飲用による効果のパイロットデータを取得いたしました。現在、本格的データ取得に向けて取り組んでおります。近年の健康志向の高まりや本年4月からの特定健診制度などを背景に、安全で美味しいだけでなく、カラダにいい水への需要は益々高まっていくものと思われます。当社では今後もさまざまな研究を重ね、毎日必ず摂る「水」による健康維持について啓蒙活動を続け、当社商品の更なる認知向上、普及に努めてまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当期末	前期末	科 目	当期末	前期末
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在		平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	7,146	7,443	流動負債	1,197	1,539
現金及び預金	4,136	4,362	支払手形及び買掛金	419	545
受取手形及び売掛金	919	1,114	未払法人税等	157	315
割賦売掛金	1,353	1,288	賞与引当金	95	102
たな卸資産	541	491	製品保証引当金	24	22
繰延税金資産	107	112	返品調整引当金	23	19
その他	91	77	その他	478	535
貸倒引当金	△ 3	△ 3	固定負債	940	986
固定資産	4,581	4,667	退職給付引当金	219	205
有形固定資産	3,431	3,520	役員退職慰労引当金	195	189
建物及び構築物	887	923	預り保証金	388	423
土地	2,377	2,377	その他	136	167
その他	166	220	負債合計	2,138	2,526
無形固定資産	22	29	(純資産の部)		
投資その他の資産	1,127	1,117	株主資本	9,606	9,534
投資有価証券	402	463	資本金	992	992
繰延税金資産	203	166	資本剰余金	986	986
その他	528	495	利益剰余金	8,107	7,896
貸倒引当金	△ 7	△ 7	自己株式	△ 480	△ 341
資産合計	11,728	12,111	評価・換算差額等	△ 26	36
			その他有価証券評価差額金	△ 7	41
			為替換算調整勘定	△ 18	△ 5
			少数株主持分	9	14
			純資産合計	9,589	9,585
			負債・純資産合計	11,728	12,111

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当期	前期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	8,748	9,571
売上原価	2,381	2,568
売上総利益	6,367	7,003
販売費及び一般管理費	5,504	5,612
営業利益	862	1,390
営業外収益	111	131
営業外費用	45	34
経常利益	929	1,488
特別損失	3	1
税金等調整前当期純利益	925	1,486
法人税、住民税及び事業税	489	701
法人税等調整額	1	0
少数株主持分損失	4	8
当期純利益	439	793

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当期	前期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	292	490
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 86	△ 286
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 425	△ 560
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 6	4
現金及び現金同等物の増加額	△ 225	△ 351
現金及び現金同等物期首残高	4,362	4,713
現金及び現金同等物期末残高	4,136	4,362

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	992	986	7,896	△ 341	9,534	41	△ 5	36	14	9,585
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 227	—	△ 227	—	—	—	—	△ 227
当期純利益	—	—	439	—	439	—	—	—	—	439
自己株式の取得	—	—	—	△ 139	△ 139	—	—	—	—	△ 139
自己株式の処分	—	△ 0	—	0	0	—	—	—	—	0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 49	△ 13	△ 63	△ 4	△ 68
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	211	△ 138	72	△ 49	△ 13	△ 63	△ 4	4
平成20年3月31日残高	992	986	8,107	△ 480	9,606	△ 7	△ 18	△ 26	9	9,589

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当期末		科 目	当期末	
	平成20年3月31日現在	前期末 平成19年3月31日現在		平成20年3月31日現在	前期末 平成19年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	4,047	5,238	流動負債	828	1,091
現金及び預金	2,739	3,808	買掛金	214	285
受取手形	16	13	未払法人税等	141	288
売掛金	993	1,159	賞与引当金	86	93
製品	56	44	製品保証引当金	24	22
前払費用	85	64	返品調整引当金	23	19
繰延税金資産	100	104	その他	339	382
その他	59	47	固定負債	846	870
貸倒引当金	△ 3	△ 3	退職給付引当金	212	198
固定資産	7,155	6,309	役員退職慰労引当金	173	170
有形固定資産	2,809	2,858	預り保証金	388	423
建物及び構築物	672	692	長期前受収益	72	78
土地	2,033	2,033	負債合計	1,675	1,961
その他	104	132	(純資産の部)		
無形固定資産	17	23	株主資本	9,535	9,545
投資その他の資産	4,327	3,427	資本金	992	992
投資有価証券	304	377	資本剰余金	986	986
関係会社株式	1,112	226	利益剰余金	8,035	7,907
関係会社出資金	87	87	自己株式	△ 480	△ 341
長期貸付金	2,412	2,143	評価・換算差額等	△ 7	41
長期前払費用	63	49	その他有価証券評価差額金	△ 7	41
繰延税金資産	363	154	純資産合計	9,527	9,587
差入保証金	238	215	負債・純資産合計	11,202	11,548
その他	180	179			
貸倒引当金	△ 432	△ 7			
資産合計	11,202	11,548			

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期		前 期	
	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	8,608	9,402		
売上原価	2,435	2,705		
売上総利益	6,172	6,697		
販売費及び一般管理費	5,223	5,289		
営業利益	949	1,407		
営業外収益	130	149		
営業外費用	26	27		
経常利益	1,054	1,530		
特別損失	428	0		
税引前当期純利益	626	1,530		
法人税、住民税及び事業税	439	633		
法人税等調整額	△ 169	△ 1		
当期純利益	356	897		

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	992	986	7,907	△ 341	9,545	41	41	9,587
事業年度中の変動額								
任意積立金の積立	—	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△ 227	—	△ 227	—	—	△ 227
当期純利益	—	—	356	—	356	—	—	356
自己株式の取得	—	—	—	△ 139	△ 139	—	—	△ 139
自己株式の処分	—	△ 0	—	0	0	—	—	0
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 49	△ 49	△ 49
事業年度中の変動額合計	—	△ 0	128	△ 138	△ 10	△ 49	△ 49	△ 60
平成20年3月31日残高	992	986	8,035	△ 480	9,535	△ 7	△ 7	9,527

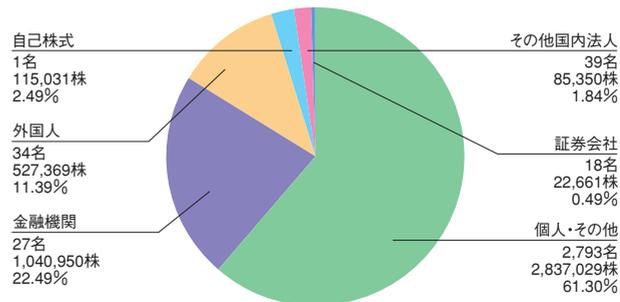
(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (平成20年3月31日現在)

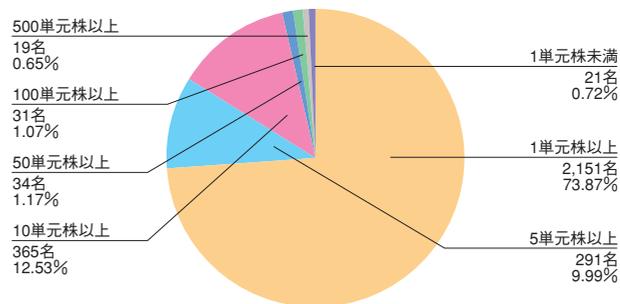
発行可能株式総数	8,000,000 株
発行済株式の総数	4,513,359 株 (自己株式115,031株を除く)
株主数	2,912 名
大株主	

株主名	持株数
森 澤 紳 勝	1,875,290 株
野村信託銀行株式会社	290,750
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	217,150
メロンバンク トリーティア クライアンツ オムニバス	206,400
日興シティ信託銀行株式会社	200,400
ジービー モルガン チェース バンク	138,800
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	91,050
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	58,500
第一生命保険相互会社	50,000
住友生命保険相互会社	50,000

所有者別株式分布状況



所有単元数別株式分布状況



会社の概要 (平成20年3月31日現在)

商 号	株式会社日本トリム NIHON TRIM CO.,LTD.
本 社	大阪市北区大淀中一丁目8番34号
設 立	1982年(昭和57年)6月12日
資 本 金	992,597千円
従 業 員	371名(関係会社含む)
主な事業内容	電解還元水整水器及びカートリッジ・ 家庭用電位治療器等の製造販売

役員 (平成20年6月26日現在)

代表取締役社長	森 澤 紳 勝
取締役副社長	須 長 英 明
専務取締役	尾 田 虎 二 郎
常務取締役	西 谷 由 実
常務取締役	三 谷 禎 秀
常勤監査役	森 澤 邦 雄
監 査 役	阿 田 木 実
監 査 役	筧 正 澄

日本発の技術で世界の
オンリーワン企業を
目指します。

- **日本トリムグループ**
- 当社の既存事業である、家庭用電解還元水整水器の製造・販売事業を拡大すると共に、
- 電解還元水の人工透析への応用へ向けた研究開発を推進、また、新事業投資分野では、
- TRIMGEN CORPORATIONを中心とした医療分野、バイオ・アンチエイジング分野
- 等での事業展開により、世界のオンリーワン企業を構築してまいります。

国内

株式会社日本トリム

設 立：1982年(昭和57年)
所在地：大阪市北区
業 種：電解還元水整水器及びカートリッジ・家庭用電位治療器等の製造販売、ボトルドウォーターの製造販売、電解還元水の研究開発



株式会社トリムエレクトリックマシナリー

設 立：1990年(平成2年)
所在地：高知県南国市
業 種：電解還元水整水器及びカートリッジ・家庭用電位治療器等の製造



ISO13485, ISO9001 認証取得

株式会社トリムフィナンシャルサービス

設 立：2004年(平成16年)
所在地：大阪市北区
業 種：割賦販売業務

株式会社トリム・オブティマル・ヘルス

設 立：2006年(平成18年)
所在地：東京都千代田区
業 種：健康関連商品販売会社

株式会社機能水細胞分析センター

設 立：2004年(平成16年)
所在地：福岡市博多区
業 種：機能水科学分析

株式会社GIバイオポリス

設 立：2003年(平成15年)
所在地：大阪府豊中市
業 種：消化管損傷修復因子の医療研究

株式会社トリムジン ホールディングス

設 立：2007年(平成19年)
所在地：東京都千代田区
業 種：持株会社

株式会社トリム メディカル インスティテュート

設 立：2008年(平成19年)
所在地：宮城県仙台市
業 種：糖分解代謝物の受託測定

海外

TRIMGEN CORPORATION

設 立：1999年(平成11年)
所在地：米国メリーランド州ボルチモア
業 種：バイオテクノロジー、遺伝子診断

広州多寧健康科技有限公司

設 立：2005年(平成17年)
所在地：中国広東省広州市
業 種：電解還元水整水器及び飲料水、健康関連商品の製造販売

PT SUPER WAHANA TEHNO

設 立：2006年(平成18年)
所在地：インドネシア・ジャカルタ
業 種：ボトルドウォーター製造及び販売

日本トリムネットワーク

本 社：大阪
：東京オフィス
支 社：東京・名古屋・広島・福岡
営業所：札幌・仙台・大宮・千葉・横浜・新潟・長野・静岡・金沢・
京都・岡山・山陰・松山・高知・長崎・熊本・鹿児島

